

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

|       |     |     |     |
|-------|-----|-----|-----|
| ① 国語A | 39人 | 国語B | 39人 |
| ② 算数A | 39人 | 算数B | 39人 |
| ③ 理科  | 39人 |     |     |

#### 5 留意事項

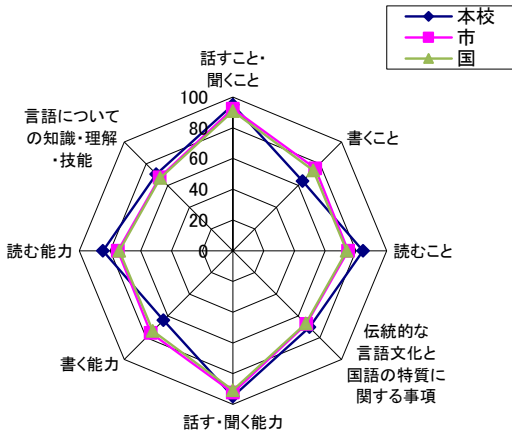
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

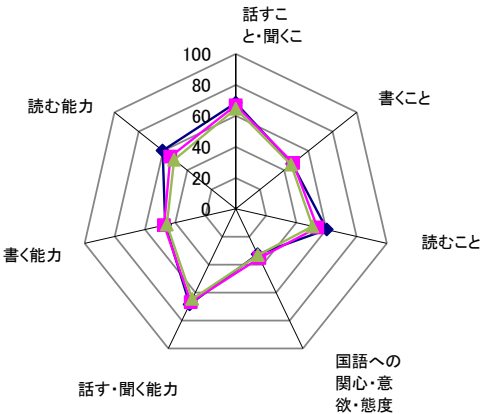
【国語A】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 94.9 | 92.4 | 90.8 |
|     | 書くこと                 | 64.1 | 75.7 | 73.8 |
|     | 読むこと                 | 84.6 | 74.9 | 74.0 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 70.5 | 67.5 | 67.0 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         |      |      |      |
|     | 話す・聞く能力              | 94.9 | 92.4 | 90.8 |
|     | 書く能力                 | 64.1 | 75.7 | 73.8 |
|     | 読む能力                 | 84.6 | 74.9 | 74.0 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 70.5 | 67.5 | 67.0 |



【国語B】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 68.4 | 66.8 | 64.6 |
|     | 書くこと                 | 46.7 | 47.4 | 45.6 |
|     | 読むこと                 | 60.3 | 54.0 | 50.8 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 |      |      |      |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 32.5 | 35.2 | 33.2 |
|     | 話す・聞く能力              | 68.4 | 66.8 | 64.6 |
|     | 書く能力                 | 46.7 | 47.4 | 45.6 |
|     | 読む能力                 | 60.3 | 54.0 | 50.8 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

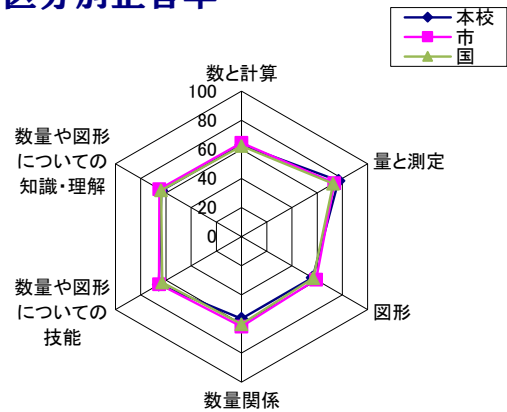
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                     | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○国語Aでは、市や全国の平均を2.5ポイント～4ポイント上回っている。<br>○国語Bでは、市や全国の平均を上回っている。<br>●目的や意図に応じ適切な言葉遣いで話す問題の正答率は高かったが、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめるというように、自分の考えを取り入れて話す問題では正答率が低かった。         | ・場に応じた話し方や聞き方を学ぶだけでなく、視点を与えた話し方・聞き方を取り入れた授業を意図的にする。<br>また、自分の考えと比べたり共通点を見つけたりしながら聞き、それらをふくめて自分の考えとまとめて発表する機会を増やしていく。<br>・話し合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話し合いを進めている様子を具体的に示すようにする。                                                                                                   |
| 書くこと                 | ○国語Bでは、市や国の平均と同等か若干上回っていた。<br>●国語Aでは、市や国の平均値を下回っていたが、問題数が1問と少なく、知識的な問題だったので、書く力が十分ではないとまでは言えない。<br>○目的や意図に応じて文章全体の構成を考える問題の正答率は高かった。                                       | ・物語を創作する問題で、自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えるなど、経験が乏しいと思われる問題で正答率が低かったため、様々な書く経験を通して学びが深まるように、多くの機会を用意し、指導していきたい。<br>・普段から、児童の日常生活の中から書く必要のあることを取り上げて題材を選び、書くことによってどのようなよさが期待できるかなど、見通しをもたせるようにする。<br>・複数の資料を読み取りながら、整理して自分の考えを書いたり、決められた文字数の中でまとめたりと制限された環境の中で考えをまとめたりする機会を増やしていく。 |
| 読むこと                 | ○国語Aでは、市や国の平均を10ポイント上回った。<br>○国語Bでは、国の平均を10ポイント上回り、市の平均を6ポイント上回っていた。<br>○目的に応じて必要な情報をとらえたり、登場人物の心情について、情景描写をもとと捉えることができた。<br>●複数の本や文章などを選んで読むことも正答率は高かったが、無回答率も平均より若干高かった。 | ・本を読むことが好きな児童が多く、情景描写や物語の流れを読み取るのは得な児童も多い。一方で読書は好きだが、自分の好む分野だけしか読まない児童も多いので、多様な種類の本を読む機会を意図的に設けていくようにする。<br>・物語を読む際には、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことができるよう物語全体を見通すことができるような学習シートを用いたり、感想を書いたカードやノートを活用したりしながら、どの叙述に着目したのかを明確にすることができるよう指導する。                                                 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○国語Aでは、市や全国の平均を上回っている。<br>○日常で使われている慣用語の意味を理解し、活用する問題では、正答率が97.4%とほとんどの児童が正解していた。<br>●文の中における主語と述語の関係に注意して、関係の正しい文を選ぶ問題では、正答率が平均よりも低かった。                                   | ・主語や述語の関係や詳しくする言葉などは、文章を読むときに意識しながら読むなど、自然に身に付けていけるような声かけをする。<br>・学習した漢字を繰り返し練習するだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにしていく。                                                                                                                                                       |

宇都宮市立 昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

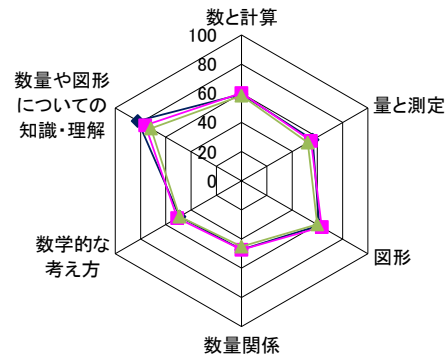
★本年度の国、市と本校の状況  
【算数A】

| 分類 | 区分              | 本年度  |      |      |
|----|-----------------|------|------|------|
|    |                 | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と計算            | 63.1 | 64.5 | 62.3 |
|    | 量と測定            | 76.9 | 73.6 | 72.7 |
|    | 図形              | 56.4 | 59.1 | 56.9 |
|    | 数量関係            | 56.4 | 61.8 | 60.1 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度    |      |      |      |
|    | 数学的な考え方         |      |      |      |
|    | 数量や図形についての技能    | 65.6 | 65.5 | 63.0 |
|    | 数量や図形についての知識・理解 | 63.5 | 65.3 | 63.8 |



【算数B】

| 分類 | 区分              | 本年度  |      |      |
|----|-----------------|------|------|------|
|    |                 | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と計算            | 59.4 | 60.2 | 58.4 |
|    | 量と測定            | 56.4 | 55.0 | 52.4 |
|    | 図形              | 61.5 | 63.5 | 59.9 |
|    | 数量関係            | 47.2 | 47.3 | 45.1 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度    |      |      |      |
|    | 数学的な考え方         | 49.0 | 51.0 | 49.2 |
|    | 数量や図形についての技能    |      |      |      |
|    | 数量や図形についての知識・理解 | 82.1 | 76.2 | 71.7 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

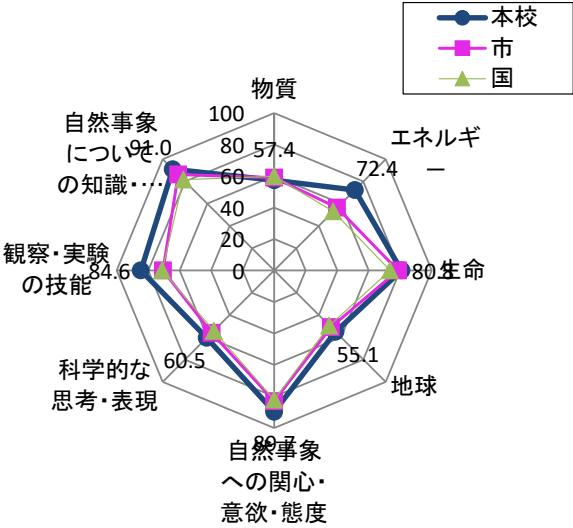
| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の重点                                                                                                                                                           |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | ○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題の正答率は市や全国の平均を大きく上回っている。<br>●除法で表すことのできる二つの数量の関係の理解が市や全国の平均を下回っていた。<br>○算数Bでは示された情報や考え方を解釈し、条件に合う時間を求める問題の正答率が市や全国の平均を大きく上回っている。<br>●示された考え方を解釈し条件を変更して考察した数量の関係を表現方法を適用して記述する問題の正答率が低かった。                | ・文章題を読んで立式する際には数直線を書き、それぞれの数量が何を表しているのか考えるよう習慣づける。さらに、自ら見出した数量の関係が成り立つ理由を相手に分かりやすく伝える上で、言葉や図を用いると有用であると実感できるような授業展開に努める。                                           |
| 量と測定  | ○算数A、Bともに市や全国の平均を上回っている。<br>○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合を比べる問題の正答率が高かった。<br>●一つの点の周りに集まった角の大きさの和が $360^\circ$ になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く問題の正答率が低かった。                                                                                        | ・単位量あたりの大きさは問題を解く上で何を単位量としているのか理解することが大切なので必ず数直線を書き、単位量とそれ以外の数値の関係を視覚的にとらえられるよう、授業の中で繰り返し指導し、理解できるよう努める。<br>・角の大きさ、角の和の大きさ等の既習事項を復習した上で、それらを活用して問題を解く経験を増やし、定着を図る。 |
| 図形    | ○示された合同な三角形が敷き詰められた模様の中から条件に合う図形を見出す問題においては、正答率が高かった。<br>●算数A、Bともに市や全国の平均を下回っている。<br>○示された表現方法を基に空間の中にあるものの位置を表現する問題の平均は市や全国を上回っている。<br>●円周率の意味、直径の長さや円周の長さの関係に関する理解が十分ではない。                                                                     | ・円周、直径、円周率の関係を言葉や公式としてのみの理解にとどまらぬよう、授業の中で、操作する活動を取り入れて学習を進めることで、実感を伴った理解に結びつこうにする。<br>・図形の性質は複数年で学習するので、それらをまとめて復習し、性質を確実に覚えた上で、それらを活用して問題を解く経験を増やしてゆく。            |
| 数量関係  | ○算数Aの百分率を求める問題の正答率は僅かに市や全国の平均を上回っている。<br>○算数Bの棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する問題は市や全国の平均を上回っている。<br>●算数Bの「32、40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを分配法則を用いた式に表す問題の正答率が市や全国を下回った。<br>●算数Bのメモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題は市、全国、本校とも正答率が15%～20%前後と低かった。 | ・分配法則や結合法則等の式の計算のきまりについては、既習の復習はもちろんのこと、中学校数学科へつながる内容として、意識的に学習させるようにする。<br>・授業の中だけではなく、朝の学習や家庭学習を活用し、継続して既習事項の復習をする。                                              |

宇都宮市立昭和小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

| 分類 | 区分             | 本年度  |      |      |
|----|----------------|------|------|------|
|    |                | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 物質             | 57.4 | 59.0 | 59.8 |
|    | エネルギー          | 72.4 | 56.4 | 53.1 |
|    | 生命             | 80.8 | 78.6 | 73.6 |
|    | 地球             | 55.1 | 50.9 | 49.5 |
| 観点 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 89.7 | 82.9 | 82.1 |
|    | 科学的な思考・表現      | 60.5 | 56.1 | 54.1 |
|    | 観察・実験の技能       | 84.6 | 70.6 | 71.1 |
|    | 自然事象についての知識・理解 | 91.0 | 86.2 | 81.5 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質    | ●平均正答率は、市や国の平均よりも若干下回っていた。<br>○ろ過の適切な方法など、観察や実験の技能を問われる問題では市や国の平均を20ポイント上回っていた。<br>○科学的な思考・表現を必要とする選択式の問題では、平均正答率が94%と十分理解していた。<br>●食塩水に関する問題で、水と食塩の質量に関する問題の正答率が低かった。 | ・実験した内容で理解できている内容が多く、また、予想と結果から考察するという実験の流れが身に付いているといえる。しかし、道具の扱いで十分でない面もあったので、これからは、わかっているはずではなく、毎回道具の使い方などについても触れながら実験を行いたい。<br>・今後も児童が興味をもって取り組めるような授業の展開をしていくと同時に、調べたい内容を導くためにはどのような実験をして、その結果から何が分かるかという科学的思考が育つような授業展開を工夫していく。                                        |
| エネルギー | ○平均正答率は、市や国の平均よりかなり高く、市の平均よりも15ポイント、国の平均よりも18ポイント高かった。<br>○エネルギーの問題は、全てが活用を見る問題で、知識や技術を理解した上でそれを活用する力が必要となるが、どの問題も正答率がかなり高く、知識や技術が十分身に付いていると言える。                       | ・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、実験を構想する力を身に付けさせるために、授業でもほしいう結果を導くための実験を自分たちで構想する機会を与えるようにする。<br>・学習した内容を、日常生活の中の物質に置き換えたり、具体的に考えさせたりして、事象のしくみや関係を考えていく力を育成していく。                                                                                                                    |
| 生命    | ○平均正答率は、市の平均を2ポイント、国の平均を6ポイント上回っていた。<br>○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を答える短答式の問題では、正答率が94.9%と高かった。<br>●人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できるかを問う問題では、正答率は平均を下回った。                               | ・植物や動物の生長について、観察したことを十分理解することができた。これ以後学習する人体についての学習では、実際には観察できない内容もあるので、デジタル教材を使って映像を見せることで、児童に図や絵や表などに表現させるなどして理解を深めていきたい。                                                                                                                                                 |
| 地球    | ○平均正答率は、市の平均を4ポイント、国の平均を5ポイント上回っていた。<br>○より妥当な考えを作り出すために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察する問題では、正答率は平均を上回っていた。<br>●実験結果を基に分析して考察し、記述する問題では、正答率は平均を上回っているが、25.6%と低かった。              | ・実験や観察での基本的な知識が十分身に付いているが、それを活用して自分の考えを書くことは十分でないので、授業で実験後の考察を自分でまとめたり、友達との意見交換から考えたことを書いたりするなど、授業の中でも書く機会を増やしていく。<br>・知識や技術については、毎時間確認するとともに、理科室の掲示物の活用やミニテストなどを取り入れ、基本的な知識の定着を図る工夫をする。<br>・理科の時間以外の朝の会や帰りの会などでも自然や気象などを話題にすることで、日常の事象について関心を持ち、学習内容との関連を意識しながら生活できるようにする。 |

## 宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、よいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定割合が県や全国の平均に比べて非常に高かった。これからも、児童一人一人のよい面を認めて伸ばしていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の肯定的回答が県・全国の平均を大きく上回っている。学校行事への地域の方々の熱心な協力や地域の行事が身近にある本校のよさの反映であり、それを児童もしっかりと学び取っていることが伺える。感謝の気持ちを持ち、地域を担う一員としての自覚を今後も高められるようにしたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についての肯定的回答は約95%と高い。他人を思いやる気持ちや、いじめは許さないという正しい判断力が育っていると思われる。

○「朝食を毎日食べていますか」の肯定的な回答の割合は、ほぼ100%であり、また「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「起きていますか」の肯定的回答も県・全国の平均を上回っている。これらのことから、家庭での児童への規則正しい生活への意識付けが十分に行われていることが伺える。家庭への呼びかけを継続していきたい。

●将来の夢や目標をもっていると回答した児童が県や全国の平均よりも10%ほど少ない。インターンシップでの体験や活動を通し、キャリア教育の推進が求められる。総合学習のまとめを生かせるよう指導していきたい。

●教科書を使った自学自習については、肯定的回答が低い結果である。家庭学習や自主学習の進め方について丁寧に指導するとともに、授業における学習指導について工夫を重ね、改めて指導していきたい。

●普段(月～金曜日)の勉強時間については「2時間以上」との回答は県・全国を上回っているが「全くしない」という児童が12.8%いるなど、個人差が大きい。個に応じた指導の充実に努めていきたい。

## 宇都宮市立 昭和小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組  | 取組の具体的な内容                                     | 取組に関わる調査結果                                                                                                |
|---------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 振り返りの充実 | 授業の最後に振り返りの時間を確保し、学習の内容を十分理解できるようにする。         | 「振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が4年生は73.8%、5年生は81.4%と高くなっている。また、6年生では、振り返りの時間を十分確保することで、学習内容の定着を高めている。今後も継続していく。    |
| 家庭学習の定着 | 自分の家庭学習の内容や時間を見直したり、計画を立てたりして、家庭学習のさらなる定着を図る。 | 家庭学習力が4、5、6年共に市の平均よりも上回っており、家庭学習の定着が見られる。「家で自分で計画を立てて勉強している」では、肯定解答率が74%以上となっており、計画的に家庭学習をする習慣も身に付いてきている。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                 | 重点的な取組                                | 取組の具体的な内容                                                                                                                          |
|------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文章を読みとる力の向上                  | 問題内容で聞かれていることを確認する場の設定<br>文章を最後まで読む活動 | 文章を最後まで読み取り、キーワードを見つけたり要点をまとめたりする活動を授業で取り入れる。また、初めての文章にも抵抗なく取り組んだり最後まで読み進めたりすることができるように、教科書教材以外の文章を授業で活用したり、様々な分野の本を読むことを勧めたりしていく。 |
| 相手の話や文章に対して、自分の考えをもち表現する力の向上 | 目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動や場の設定の工夫     | 学習の振り返りの時間に、キーワードや条件などを設定して書くようにし、書く力の向上に努める。                                                                                      |